

PCT/JP03/15129

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

27.11.03

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
いる事項と同一であることを証明する。

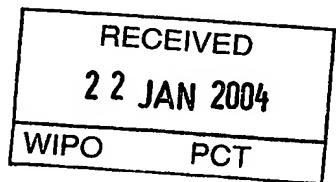
This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
with this Office.

出願年月日
Date of Application: 2003年 1月 24日

出願番号
Application Number: 特願 2003-016360

[ST. 10/C]: [JP 2003-016360]

出願人
Applicant(s): 日本テトラパック株式会社

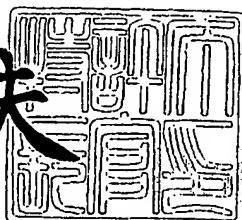


PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2004年 1月 8日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井 康夫



出証番号 出証特 2003-3109560

【書類名】 特許願
【整理番号】 NTP-572
【提出日】 平成15年 1月24日
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 B65B 3/00
【発明者】
【住所又は居所】 東京都千代田区紀尾井町6番12号 日本テトラパック
株式会社内
【氏名】 金子 正道
【特許出願人】
【識別番号】 000229232
【氏名又は名称】 日本テトラパック株式会社
【代理人】
【識別番号】 100088111
【弁理士】
【氏名又は名称】 清水 正三
【手数料の表示】
【予納台帳番号】 059891
【納付金額】 21,000円
【提出物件の目録】
【物件名】 明細書 1
【物件名】 要約書 1
【物件名】 図面 1
【包括委任状番号】 9501043
【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 包装容器および包装容器に取付けられる注ぎ栓

【特許請求の範囲】

【請求項1】 折り目線を有するウェブ状包装材料のチューブ状への成形、該包装材料の両端部でのチューブの縦線方向への縦シール、チューブ状包装材料内への液体食品の充填、チューブ状包装材料の横断方向への横シール、該横シール部での切断による枕状容器の形成及び、該折り目線に沿ったラップの折畳みによって得られる最終形状の包装容器であって、

該折り目線の折畳みによって形成される頂部が、該頂部の前側において前方に傾斜した面と、該頂部の後側において該傾斜面と隣接した実質的に平坦な面とを有し、

該頂部形成に伴って派生する該ラップが、該折り目線の折畳みによって、該頂部に隣接する該容器の側壁に当接されている

ことを特徴とする包装容器。

【請求項2】 頂部の少なくとも前側において前方に傾斜した面を有し、フィルムによりシールされた開口可能域を該傾斜面に有する包装容器に取付けられる、枠体、キャップ及び可動リングとからなる注ぎ栓であって、

注ぎ口を形成する該枠体が、該開口可能域の周辺の該傾斜面に接合されるフランジ部と、該フランジ部と一体成形されかつ実質的に直立するように略斜めに切断した円筒形状の注ぎ口部とからなり、

該キャップは、該注ぎ口を閉止するために該注ぎ口部に取外し可能に取付けられ、

該注ぎ口部の内周に配設される、下端部において略斜めに切断した円筒形状の該可動リングは、該キャップの回転とともに回転するよう、該キャップと係合し、略斜めに切断した形状の下端部若しくはその近傍に刃部を有することを特徴とする

包装容器に取付けられる注ぎ栓。

【請求項3】 該注ぎ栓が、該傾斜面と該頂部の後側において該傾斜面と隣接した実質的に平坦な面とを有する包装容器に取付けられ、該注ぎ口部に取付け

られた該キャップの高さが、該容器頂部の該平坦部の高さより低い、請求項2記載の注ぎ栓。

【請求項4】 該可動リングは、該キャップの回転とともに回転する際、上下動するように、該注ぎ口部の内周面及び該可動リングの外周面に案内溝と案内突起とを備え、回転終了時の該案内溝の位置が回転開始時の該案内溝の位置より低い、請求項2記載の注ぎ栓。

【請求項5】 該可動リングは、該キャップの回転とともに回転して開口可能域のシールされたフィルムを一部未切断部を残して円形状に切断するように、回転終了時の該案内溝の位置が設定される、請求項5記載の注ぎ栓。

【請求項6】 該キャップの外周面から突出した回転補助部と該フランジ部から直立した改竄防止部とを有し、開栓前に該回転補助部と該改竄防止具とが、キャップ回転によって離脱容易に係合している、請求項2記載の注ぎ栓。

【発明の詳細な説明】

【0001】

本発明は、頂部の前方に傾斜した面を有し、開口可能域を傾斜面に有する包装容器及び、傾斜面を有する容器に取付けられる注ぎ栓に関する。

【0002】

【従来の技術】

フルーツ・ジュース、UHT（超高温処理）ミルク、ワイン、トマト・ソースなどのような多くの流動食品は無菌パッケージ材料で作られた流動食品用包装容器で包装されて販売されている。

そのような流動食品用包装容器の典型例は、周知の液体食品または流動食品用の平行六面体（ブリック状）の紙容器、屋根形の紙容器であり、この紙容器は積層された包装材を折曲げ、シールして形成される。この包装材は、両面を例えばポリエチレンのような熱シール・プラスチック材料で覆われた例えば紙のような繊維材料の層を含む多層構造を有する。また、UHTミルクのように長期保存用の無菌紙容器の場合、包装材は例えばアルミニウム薄膜で定義される酸素バリヤ材料の層を含み、この層は熱シール・プラスチック材料の層上に重ねられ、また最終的に食品に接触するパッケージ内面を形成する他の熱シール・プラスチック

材料の層でさらに覆われる。

【0003】

上述形式の流動食品用包装容器は、注ぎ出すための閉止可能な開口装置を一般に備えている。このような開口装置は、開口を形成する器壁の穴、パンチ抜き、または切離可能部分に取付けられるフレームと、キャップとを実質的に含む。

器壁のパンチ穴にラミネートフィルムが貼付された開口可能域に直接に開口装置を取付ける優れた方法およびその開口装置が取り付けられた包装容器が、例えば、特開2001-72008号に記載されている。

【0004】

プリック状（平行六面体）の包装容器は、例えば、図5に示すような包装充填機において、繊維質基材（例えば、紙など）／プラスチック積層体に折目線が付けられたウェブ状包装材料1のロールを、その長手方向の一端にシーリングテープをアプリケータ3で接合し、成形ロール6及び縦線シール装置8によりチューブ状に成形し、チューブ状に成形された包装材料内に内容物を充填パイプ7から充填し、チューブ状包装材料の横断方向に横線シール装置10及び11で横シールし、一定間隔に個々に切断し、クッション形若しくは枕状の一次形状容器13に成形し、最終成形装置15で折目線に沿ってラップ片を折疊んで、図8に示すような、プリック状の最終形状容器14に成形される。

【0005】

図6に示すように、折目線が付けられたウェブ状包装材料の容器1個分の包装材料1に、縦シール用のシール領域26、チューブ状包装材料の横断方向に横線シールを施す横シール領域23、容器器壁を形成する側パネル21、容器の頂部を形成するパネル20a、22a、容器の底部を形成するパネル20b、22b、折り畳まれて側壁若しくは底部に溶着されるラップ片24を形成するパネルからなり、それらのパネルの境には、折目線24a、25a、25cなどが形成されている。

【0006】

図7（a）（b）（c）に、一次形状容器13が折目線に沿って折り、ラップ片24を折疊んで図8に示すようなプリック状の最終形状容器14に成形され

る様子を示す。前面器壁22、側壁21、後面器壁20、頂部に対応する器壁22a、底部に対応する器壁22b、20b、横シール部分23及び縦シール部分26とを有する一次形状容器13が成形される（a）。次いで、折り目線に沿って折畳み、

上下に折り込み辺（フラップ）24、25及び横シールのフィン23を突出させる（b）。最後に、横シールのフィン23が折り畳まれて、フラップ24が折り目線24aで側面器壁21に接合され、フラップ25が折り目線25cで底面器壁に接合される（c）。

【0007】

屋根型紙製包装容器では、紙製包装材料を所定の形状に裁断し、容器縦方向にシールしたプランクスを得、充填機内でプランクスの底をシールした後に上部開口から牛乳、ジュース又はその他の飲料の被充填物を充填し、上部をシールして得られる。これらの包装材料には、その表面に包装容器製品の外観デザインが印刷される。

【0008】

屋根型紙製包装容器については、片方の屋根部分を広くし大型の注出口を取り付けた紙容器が提案されている。（特開平11-91792号及び特開平11-236027号など）

しかし、屋根型（切妻形状）から更に、トップシールフィンを倒し、一枚の屋根の片流れ屋根（Shed Roof）形状にすると、折り込み部分が内側に更にきつく折られ、引っ張り若しくは押圧のストレスが増し、紙容器の強度特性が著しく低下する。

【0009】

これに対して、上記ウェブ状包装材料から得られた紙容器であるが、ブリック形状ではなく、頂部成形による折り込み片が側壁面上に折畳れ、頂部が片流れ屋根形状に成形される紙容器が提案されている。（国際公開公報WO02/10020）

これによって、引っ張り若しくは押圧のストレスが低減されて紙容器の強度特性を維持することができ、その頂部に大型の注ぎ栓、キャップを取り付けること

ができる。

【0010】

【発明が解決しようとする課題】

プリック状（平行六面体）の包装容器は大型の注出口を取り付けることが難しい。

他方、屋根型紙製包装容器について、上記従来の頂部に傾斜面を有する上記の容器では、片方の屋根部分を広くし大型の注出口を取り付けることができる。しかし、切妻形状から更に、トップシールフィンを倒し、一枚の屋根の片流れ屋根（Shed Roof）形状にすると、折り込み部分が内側に更にきつく折られ、引っ張り若しくは押圧のストレスが増し、紙容器の強度特性が著しく低下する。

頂部成形による折り込み片（ラップ）が側壁面上に折畳れ、頂部が片流れ屋根形状に成形される紙容器では、頂部の頂上部分が鋭角に突出して、製造過程、流通過程及び、消費過程でその部分に多くの機械的ストレスが負荷される。

【0011】

また、頂部に傾斜面を有する上記の容器に設けた従来の注ぎ栓では、キャップをネジに沿って注ぎ口から開けると、開口可能域（プレラミネッテドホール、PLHという）に溶着されたキャップ底部が、回転しながら引き上げられ、溶着された開口可能域をねじ切って開口する構造となっている。しかしながら、ラミネートの開口可能域は多層構造となっているため、各層の層間の接着が充分でないとき、キャップに溶着された上側の層のみが破り取られ下側の層の一部が容器側に残ることが起こるというの不都合がある。

しかも、開口可能域をねじ切るため、開口可能域ラミネートを構成する複数のポリオレフィン層が延びて、切断（破断）面に糸状の残渣が残るという不都合が起こることもある。

更に、開口を形成する器壁の穴、パンチ抜きの断面には、空隙（エアーギャップ）が生じやすく、その空隙近傍の開口可能域ラミネートを切断すると、液体内容物が器壁の断面に浸透する危険を低減する必要性がある。

【0012】

本発明は、折り込み部分の折畳みによる紙容器の引っ張り若しくは押圧のスト

レスを低減し、強度特性が維持することができ、かつ、片方の屋根部分を広くし大型の注出口を取り付けることができる包装容器を提供することを目的とする。

開封時に開口可能域のラミネートフィルムが容器開口部に一部残留することがない若しくは消費者に違和感を与えない綺麗な開口部分を形成することができる容器頂部の傾斜面に設けた大型の注ぎ栓を提供する目的とする。

液体内容物が器壁の断面に浸透する危険が低減された容器頂部の傾斜面に設けた大型の注ぎ栓を提供する目的とする。

【0013】

【課題を解決するための手段】

この課題を解決するこの発明の包装容器及びその包装容器に取付けられる注ぎ栓は、折り目線の折畳みによって形成される頂部が、頂部の前側において前方に傾斜した面と、頂部の後側において傾斜面と隣接した実質的に平坦な面とを有し、頂部形成に伴って派生するフランジが、折り目線の折畳みによって、頂部に隣接する容器側壁に当接されている包装容器に関する特徴とする。

本発明の包装容器に取付けられる注ぎ栓は、頂部に前方に傾斜した面を有し、フィルムによりシールされた開口可能域を傾斜面に有する包装容器に取付けられる、枠体、キャップ及び可動リングとからなる注ぎ栓であって、

注ぎ口を形成する枠体が、開口可能域の周辺の傾斜面に接合されるフランジ部と、フランジ部と一体成形されかつ実質的に直立するように略斜めに切断した円筒形状の注ぎ口部とからなり、キャップは、注ぎ口を閉止するために注ぎ口部に取外し可能に取付けられ、注ぎ口部の内周に配設される、下端部において略斜めに切断した円筒形状の可動リングは、キャップの回転とともに回転するように、キャップと係合し、略斜めに切断した形状の下端部若しくはその近傍に刃部を有することを特徴とする

【0014】

このように構成したことにより、折り込み部分の折畳みによる紙容器の引っ張り若しくは押圧のストレスを低減し、強度特性が維持することができ、かつ、片方の屋根部分を広くし大型の注出口を取り付けることができる。

容器頂部の傾斜面に設けた大型の本発明の注ぎ栓において、開封時に開口可能

域のラミネートフィルムが容器開口部に一部残留することがない若しくは消費者に違和感を与えない綺麗な開口部分を形成することができる。

容器頂部の傾斜面に設けた大型の本発明の注ぎ栓において、液体内容物が器壁の断面に浸透する危険が低減される。

【0015】

【発明の実施の形態】

本発明の請求項1に記載の包装容器は、折り目線を有するウェブ状包装材料のチューブ状への成形、該包装材料の両端部でのチューブの縦線方向への縦シール、チューブ状包装材料内への液体食品の充填、チューブ状包装材料の横断方向への横シール、該横シール部での切断による枕状容器の形成及び、該折り目線に沿ったフランプの折畳みによって得られる最終形状の包装容器であって、

該折り目線の折畳みによって形成される頂部が、該頂部の前側において前方に傾斜した面と、該頂部の後側において該傾斜面と隣接した実質的に平坦な面とを有し、

該頂部形成に伴って派生する該フランプが、該折り目線の折畳みによって、該頂部に隣接する該容器の側壁に当接されている

ことを特徴とする。

【0016】

上記構成により、折り込み部分の折畳みによる紙容器の引っ張り若しくは押圧のストレスを低減され、自然な折畳みが可能になる。その結果、容器の強度特性が維持され、局部的な器壁の割れ、ヒビ、クラックなどの発生を防止することができる。片方の屋根部分を広くすることができるので、本発明による大型の注出口も取り付けることができる。

頂部の後側において傾斜面と隣接した実質的に平坦な面とを有するので、容器形成後に、保管、貯蔵、流通、店舗展示、家庭冷蔵庫における保存において、容易に容器を積み重ねできる。

【0017】

本発明の請求項2に記載の包装容器に取付けられる注ぎ栓は、頂部の少なくとも前側において前方に傾斜した面を有し、フィルムによりシールされた開口可能

域を該傾斜面に有する包装容器に取付けられる、枠体、キャップ及び可動リングとからなる注ぎ栓であって、

注ぎ口を形成する該枠体が、該開口可能域の周辺の該傾斜面に接合されるフランジ部と、該フランジ部と一体成形されかつ実質的に直立するように略斜めに切断した円筒形状の注ぎ口部とからなり、

該キャップは、該注ぎ口を閉止するために該注ぎ口部に取外し可能に取付けられ、

該注ぎ口部の内周に配設される、下端部において略斜めに切断した円筒形状の該可動リングは、該キャップの回転とともに回転するように、該キャップと係合し、略斜めに切断した形状の下端部若しくはその近傍に刃部を有することを特徴とする。

上記構成により、注ぎ口部は略斜めに切断した円筒形状を有し、注ぎ口部内に収納される可動リングも略斜めに切断した下端部を備えることができる。その可動リングは、キャップと係合してキャップの回転とともに回転し、下端部若しくはその近傍に設けられた刃部の先端が、開封時に開口可能域のラミネートフィルムを破断する。

引き続き回転することにより、刃部は、本発明の構成により、包装容器の開口可能域に対して斜めの態勢で、開口可能域を切断する。その結果、凹凸、突起、残さなどのない鋭利な切断面を形成することができる。開封時に開口可能域のラミネートフィルムが容器開口部に一部残留することがない若しくは消費者に違和感を与えない綺麗な開口部分を形成することができる。

実質上、刃部が当たった部分のみが切断されるので、切断予定外の開口可能域の端面エーキャップをも破断切断することができない。液体内容物が器壁の断面に浸透する危険を低減することができる作用を有する。

【0018】

本発明の請求項3に記載の注ぎ栓は、注ぎ栓が、該傾斜面と該頂部の後側において該傾斜面と隣接した実質的に平坦な面とを有する包装容器に取付けられ、該注ぎ口部に取付けられた該キャップの高さが、該容器頂部の該平坦部の高さより低い。

上記構成により、注ぎ栓が容器頂部から突出することなく、頂部の後側の平坦面によって、容器形成後に、保管、貯蔵、流通、店舗展示、家庭冷蔵庫における保存において、容易に容器を積み重ねることができる作用を有する。

本発明の請求項 4 に記載の注ぎ栓は、可動リングは、該キャップの回転とともに回転する際、上下動するように、該注ぎ口部の内周面及び該可動リングの外周面に案内溝と案内突起とを備え、回転終了時の該案内溝の位置が回転開始時の該案内溝の位置より低い。

上記構成により、可動リングが上下動し、刃部は、確実に、包装容器の開口可能域を切断する。しかも、回転終了時の案内溝の位置が回転開始時の案内溝の位置より低いので、開封作業が終了した時点で、不要になった可動リングが注ぎ口から下方に隠れ、開口可能域の切断端面を覆い隠すことができるという作用を有する。

【0019】

本発明の請求項 5 に記載の注ぎ栓は、可動リングは、該キャップの回転とともに回転して開口可能域のシールされたフィルムを一部未切断部を残して円形状に切断するように、回転終了時の該案内溝の位置が設定される。

上記構成により、開口可能域のシールフィルムの一部が未切断のまま残り、判断フィルムが容器内部に落下し、消費者がそれを誤飲することを防止することができる作用を有する。

【0020】

本発明の請求項 6 に記載の注ぎ栓キャップの外周面から突出した回転補助部と該フランジ部から直立した改竄防止部とを有し、開栓前に該回転補助部と該改竄防止部とが、キャップ回転によって離脱容易に係合している。

上記構成により、突出した回転補助部のテコの作用により、容易に回転することができ、その回転により回転補助部と改竄防止部とが容易に離脱するので、いたずら等を防止するという作用を有する。

【0021】

以下、本発明の実施の形態について、説明する。

図 1 及び図 3 に、本発明による一実施態様の包装容器の斜視図を示す。包装容

器14は、図5に示すような包装充填機を用いて、折り目線を有するウェブ状包装材料1のチューブ状への成形6、該包装材料の両端部でのチューブの縦線方向への縦シール8、チューブ状包装材料内への液体食品の充填7、チューブ状包装材料の横断方向への横シール11、12、該横シール部での切断による枕状容器の形成13及び、該折り目線に沿ったラップ24の折畳み15によって得られる最終形状の包装容器14である。

折り目線の折畳みによって形成される頂部が、頂部の前側において前方に傾斜した面22dと、頂部の後側において傾斜面22dと隣接した実質的に平坦な面(20d、23、22eなど)とを有し、頂部形成に伴って派生するラップ24が、折り目線の折畳みによって、頂部に隣接する容器側壁21に当接されている。

図1は、実施態様の包装容器に注ぎ口を有する態様であり、図3は、実施態様の包装容器に注ぎ口を有しない態様である。

【0022】

図1に示すように、包装容器の注ぎ口を有する態様では、本発明の一実施形態の注ぎ栓30を備える。

図1及び、図1の実施態様の包装容器の断面を示す図3において示すその実施形態の注ぎ栓30は、頂部の前側において前方に傾斜した面22dを有し、フィルムによりシールされた開口可能域29(図1に図示せず)を傾斜面22dに有する包装容器14に取付けられる、枠体31、キャップ32及び可動リング33とからなる注ぎ栓30である。

注ぎ口を形成する枠体31が、開口可能域29の周辺の傾斜面に接合されるフランジ部34と、フランジ部34と一体成形されかつ実質的に直立するように略斜めに切断した円筒形状の注ぎ口部35とからなる。

キャップ32は、注ぎ口を閉止するために注ぎ口部35に取外し可能に取付けられる。

注ぎ口部35の内周に配設される、下端部において略斜めに切断した円筒形状の可動リング33は、キャップ32の回転とともに回転するように、キャップ32と係合し、図3(d)に示すように、略斜めに切断した形状の下端部若しくは

その近傍に刃部36を有する。

【0023】

図2に図1の容器形成用の包装材料を示す。折目線が付けられたウェブ状包装材料の容器1個分の包装材料1に、縦シール用のシール領域26、チューブ状包装材料の横断方向に横線シールを施す横シール領域23、容器器壁を形成する側パネル21、容器の頂部を形成するパネル20d、22d、22e、容器の底部を形成するパネル、折り畳まれて側壁若しくは底部に溶着されるフラップ24を形成するパネルからなり、それらのパネルの境には、折目線が形成されている。

【0024】

図4 (a), (b), (c) に、注ぎ栓30の動作を示す。

注ぎ口部35は、略斜めに切断した円筒形状を有し、注ぎ口部内に収納される可動リング33も略斜めに切断した下端部を備えることができる。その可動リング33は、キャップ32と係合してキャップ32の回転とともに回転し、下端部若しくはその近傍に設けられた刃部36の先端が、開封時に開口可能域29のラミネートフィルムを破断する。図4 (a), (b)

引き続き回転することにより、刃部33は、包装容器の開口可能域29に対して斜めの態勢で、開口可能域29を切断する。鋭利な切断面を形成する。図4 (b) に示すように、開口可能域29のフィルム29aは、下側にズレる。

これは、可動リングは、キャップの回転とともに回転して開口可能域のシールされたフィルムを一部未切断部を残して円形状に切断するように、回転終了時の該案内溝の位置が設定されているからである。

この構成により、開口可能域のシールフィルムの一部が未切断のまま残り、判断フィルムが容器内部に落下し、消費者がそれを誤飲することを防止することができる。

【0025】

図9に、本発明による一実施態様の注ぎ栓30を有する包装容器の斜視図を示す。包装容器14は、同様に、図5に示すような包装充填機を用いて、折り目線を有するウェブ状包装材料1のチューブ状への成形6、該包装材料の両端部でのチューブの縦線方向への縦シール8、チューブ状包装材料内への液体食品の充填

7、チューブ状包装材料の横断方向への横シール11、12、該横シール部での切断による枕状容器の形成13及び、該折り目線に沿ったフラップ24の折畳み15によって得られる最終形状の包装容器14である。

折り目線の折畳みによって形成される頂部が、頂部の前側において前方に傾斜した面22dと、頂部の後側において傾斜面22dと隣接した実質的に平坦な面（20d、23、22eなど）とを有し、頂部形成に伴って派生するフラップ24が、折り目線の折畳みによって、頂部に隣接する容器側壁21に当接されている。

【0026】

また、図10に、本発明による一実施態様の注ぎ栓30を有する包装容器の斜視図を示す。包装容器14では、折り目線の折畳みによって形成される頂部が、頂部の前側において前方に傾斜した面22dと、頂部22aの後側において傾斜面22dと隣接した実質的に平坦な面（20d、23、22eなど）とを有し、頂部形成に伴って派生するフラップ24が、折り目線の折畳みによって、頂部に隣接する容器側壁21に当接されている。

【0027】

図11に、本発明による好ましい実施態様の注ぎ栓30を有する包装容器の斜視図を示す。包装容器14では、折り目線の折畳みによって形成される頂部が、頂部の前側において前方に傾斜した面22dと、頂部の後側において傾斜面22dと隣接した実質的に平坦な面（20d、23、22eなど）とを有し、頂部形成に伴って派生するフラップ24が、折り目線の折畳みによって、頂部に隣接する容器側壁21に当接されている。

その注ぎ栓30は、傾斜面22dと頂部の後側において傾斜面と隣接した実質的に平坦な面とを有する包装容器に取付けられ、注ぎ口部に取付けられたキャップの高さが、容器頂部の平坦部の高さより低い。これにより、注ぎ栓が容器頂部から突出することができなく、頂部の後側の平坦面によって、容器形成後に、保管、貯蔵、流通、店舗展示、家庭冷蔵庫における保存において、容易に容器を積み重ねることができる。

【0028】

図12に好ましい実施形態の注ぎ栓30の断面を示す。この注ぎ栓30は、枠体31、キャップ32及び可動リング33とからなる。

注ぎ口を形成する枠体31が、開口可能域29の周辺の傾斜面に接合されるフランジ部34と、フランジ部34と一体成形されかつ実質的に直立するように略斜めに切断した円筒形状の注ぎ口部35とからなる。

キャップ32は、注ぎ口を閉止するために注ぎ口部35に取外し可能に取付けられる。

注ぎ口部35の内周に配設される、下端部において略斜めに切断した円筒形状の可動リング33は、キャップ32の回転とともに回転するように、キャップ32と係合し、略斜めに切断した形状の下端部若しくはその近傍に刃部36を有する。

その注ぎ栓30は、キャップ32の外周面から突出した回転補助部37とフランジ部34から直立した改竄防止部38とを有し、開栓前に回転補助部37と改竄防止具38とが、キャップ回転によって離脱容易に係合39している。

これにより、突出した回転補助部のテコの作用により、容易に回転することができ、その回転により回転補助部と改竄防止具とが容易に離脱するので、いたずら等を防止する。

【0029】

図12に示す注ぎ栓30は、図13に示すように、可動リング33は、キャップの回転とともに回転する際、上下動するように、注ぎ口部35の内周面及び可動リング33の外周面に案内溝40と案内突起41とを備え、回転終了時の案内溝40の位置が回転開始時の案内溝40の位置より低い。

可動リング33が上下動し、刃部36は、確実に、包装容器の開口可能域29を切断する。回転終了時の案内溝40の位置が回転開始時の案内溝の位置より低いので、開封作業が終了した時点で、図4 (c) に示すように、不要になった可動リング33が注ぎ口から下方に隠れ、開口可能域の切断端面を覆い隠す。

この態様では、可動リング33の側壁に、注ぎ容易の為に、貫通穴42が設けられている。

【0030】

【発明の効果】

以上説明したように本発明によって、折り込み部分の折畳みによる紙容器の引っ張り若しくは押圧のストレスを低減し、強度特性が維持することができ、かつ、片方の屋根部分を広くし大型の注出口を取り付けることができる。

容器頂部の傾斜面に設けた大型の本発明の注ぎ栓において、開封時に開口可能域のラミネートフィルムが容器開口部に一部残留することがない若しくは消費者に違和感を与えない綺麗な開口部分を形成することができる。

容器頂部の傾斜面に設けた大型の本発明の注ぎ栓において、液体内容物が器壁の断面に浸透する危険が低減される。

【図面の簡単な説明】**【図 1】**

本発明による一実施形態の包装容器の斜視図

【図 2】

本発明の一実施形態の包装容器の包装材料の平面図

【図 3】

本発明による一実施形態の包装容器の斜視図

【図 4】

本発明による一実施形態の包装容器の断面図

【図 5】

本発明による一実施形態の包装容器の製造ための充填機の概要図

【図 6】

従来の包装容器の包装材料の平面図

【図 7】

従来の包装容器の成形を示す斜視図

【図 8】

従来の包装容器の斜視図

【図 9】

本発明による一実施形態の包装容器の斜視図

【図 10】

本発明による一実施形態の包装容器の斜視図

【図 1 1】

本発明による好ましい実施形態の包装容器の斜視図

【図 1 2】

本発明による好ましい実施形態の注ぎ栓の断面図

【図 1 3】

本発明による好ましい実施形態の注ぎ栓の部分的斜視図

【符号の説明】

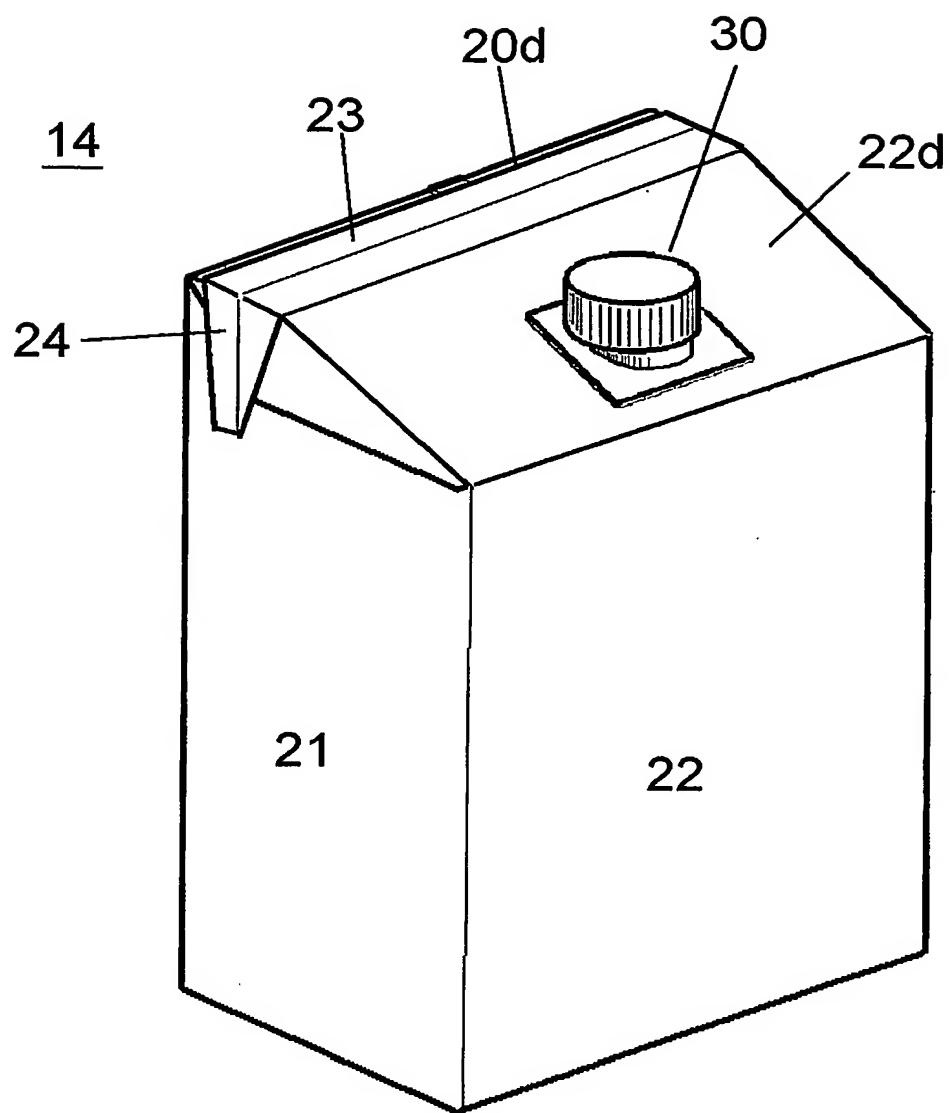
1 4 . . . 包装容器

3 0 . . . 注ぎ栓

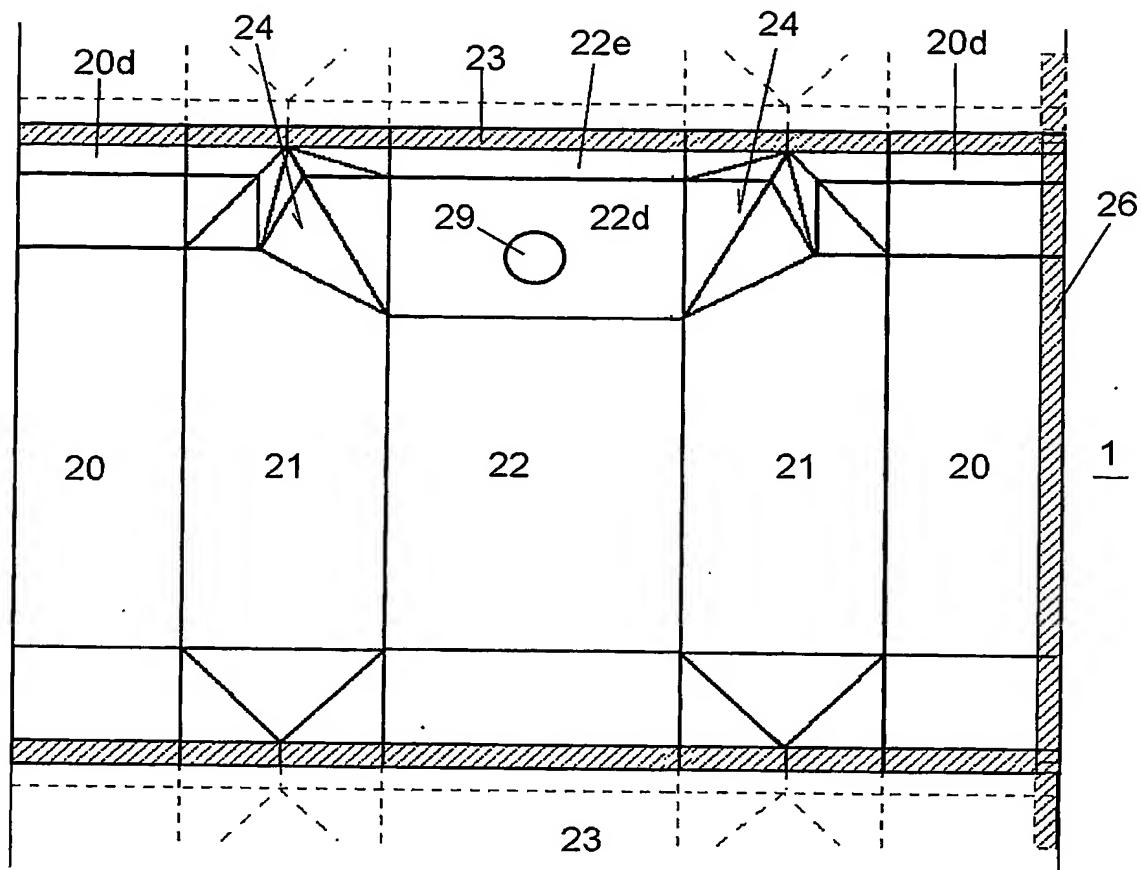
【書類名】

図面

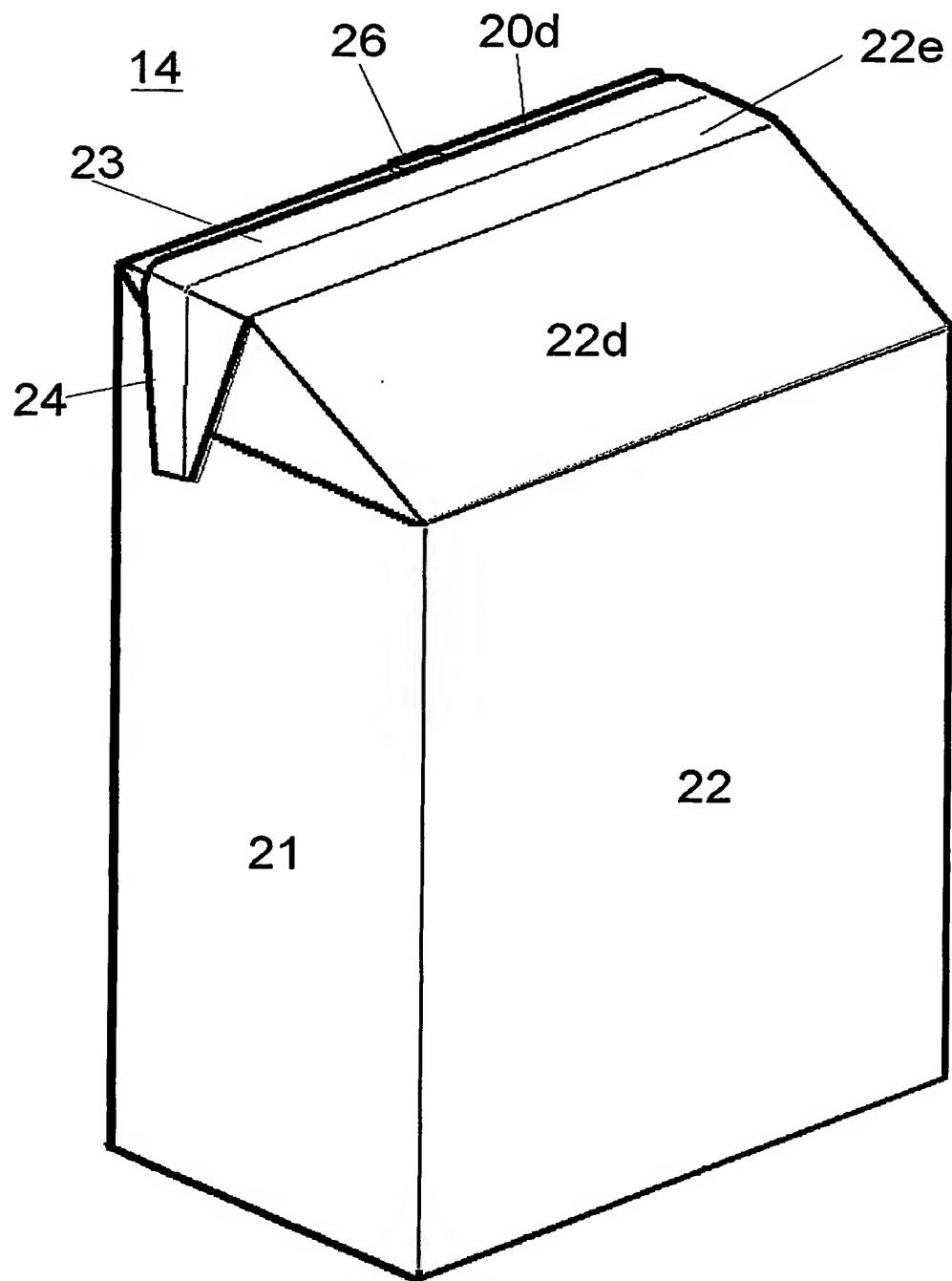
【図1】



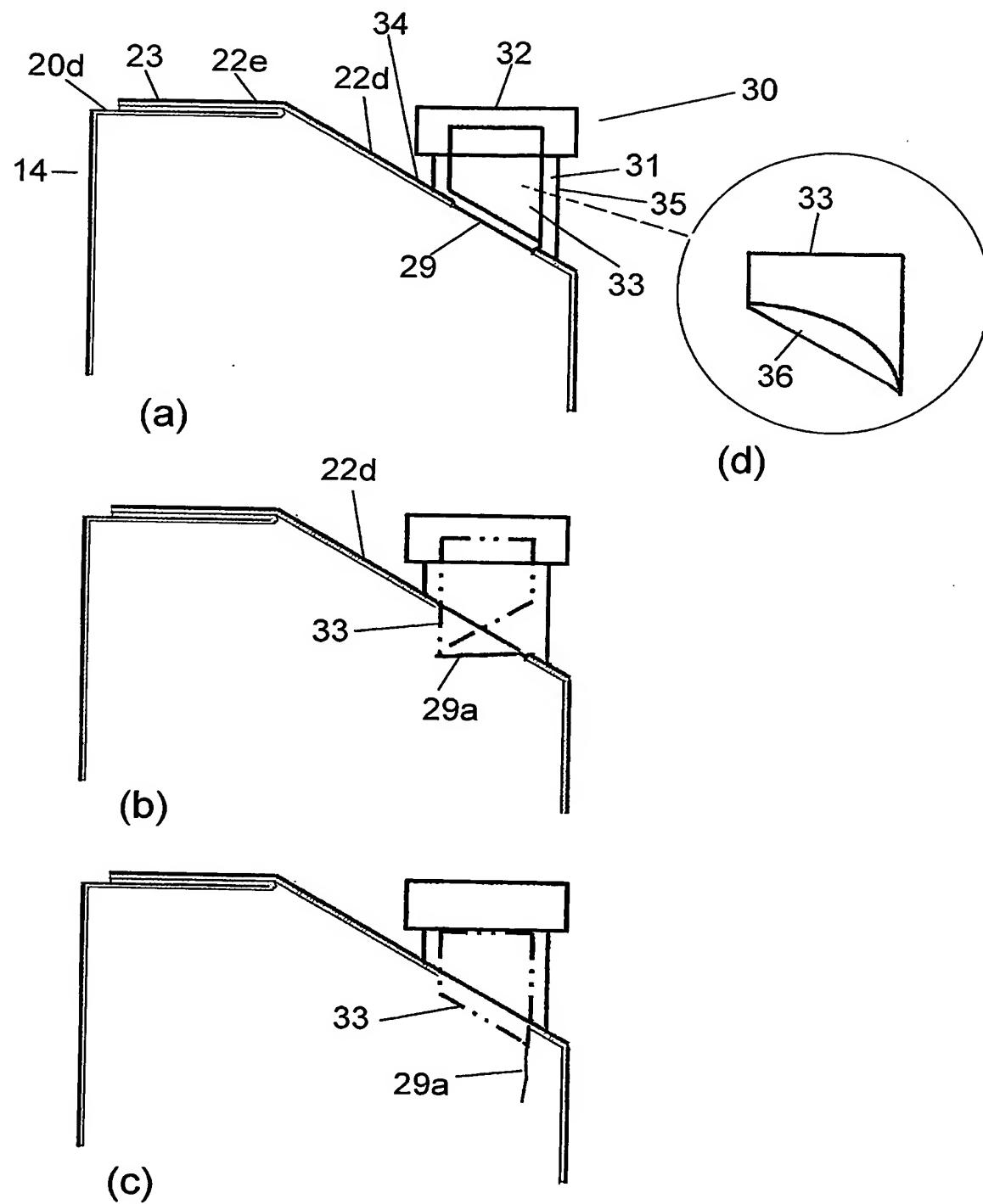
【図2】



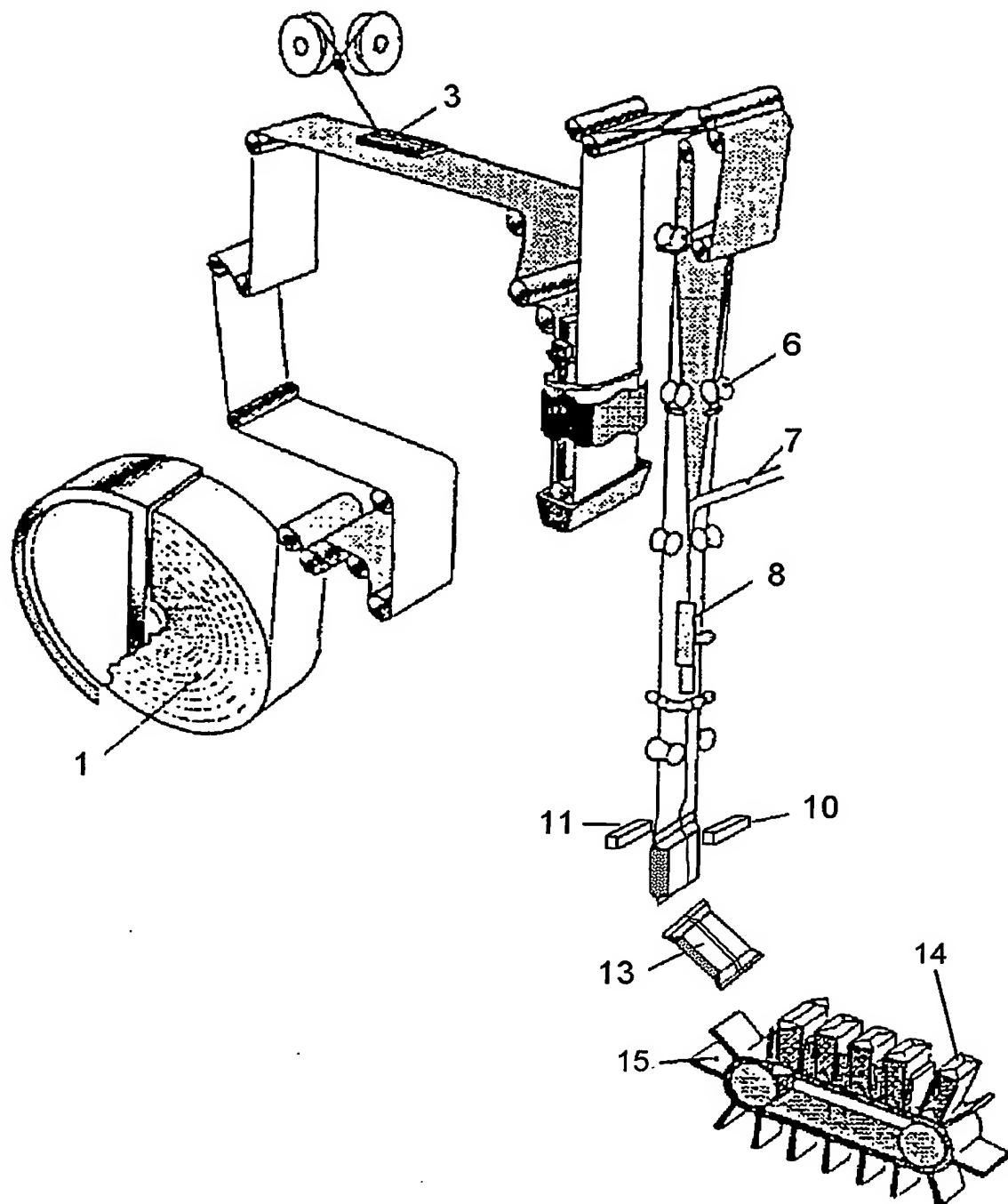
【図3】



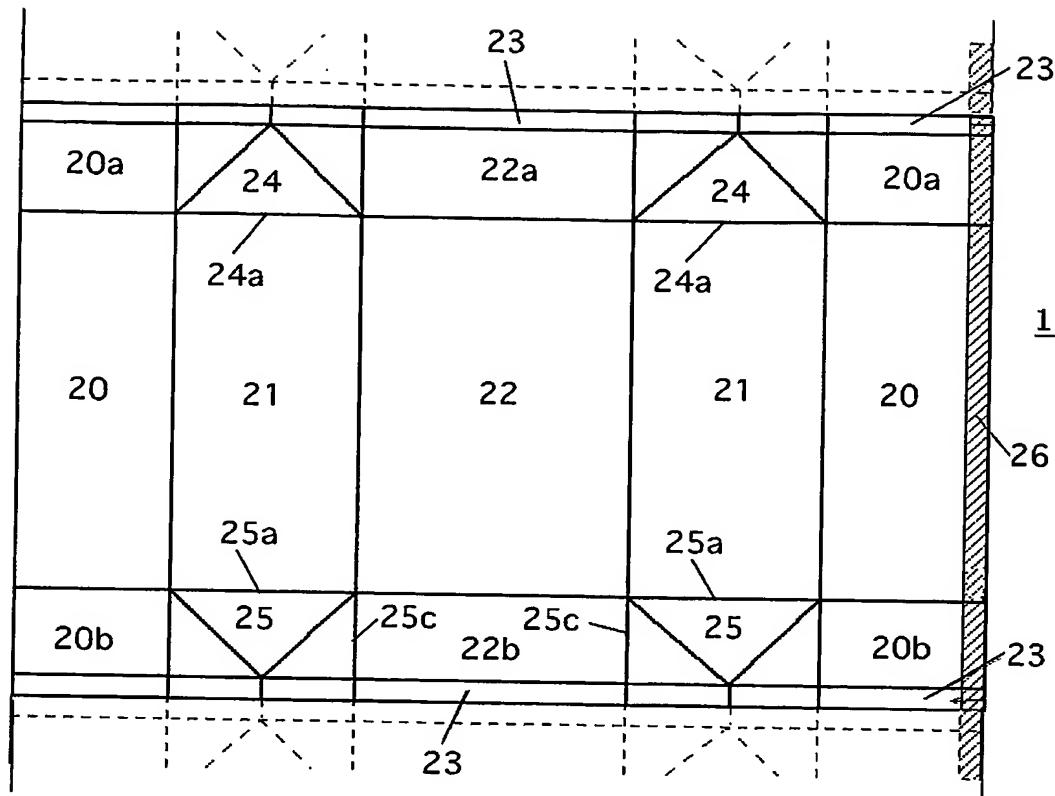
【図4】



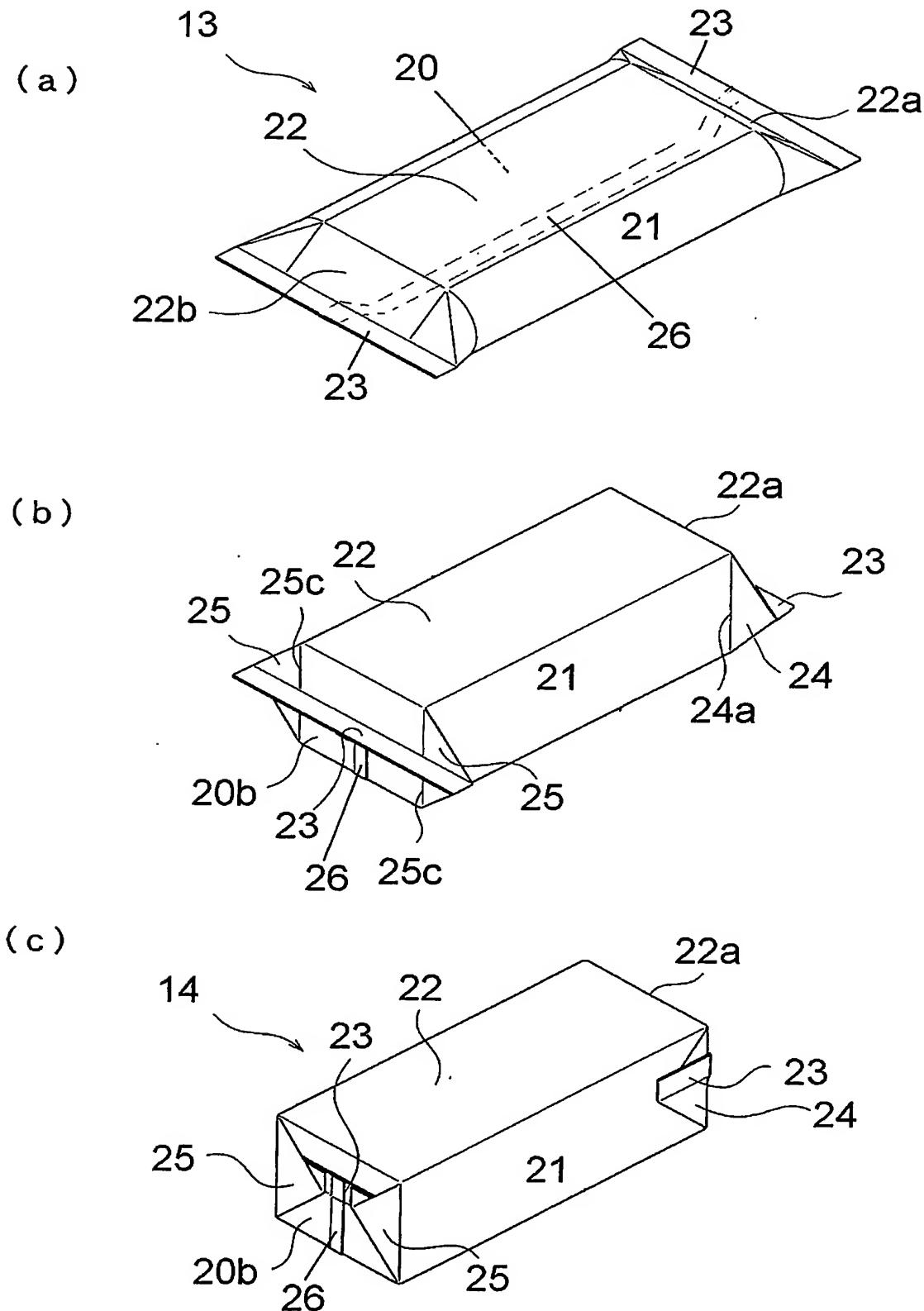
【図5】



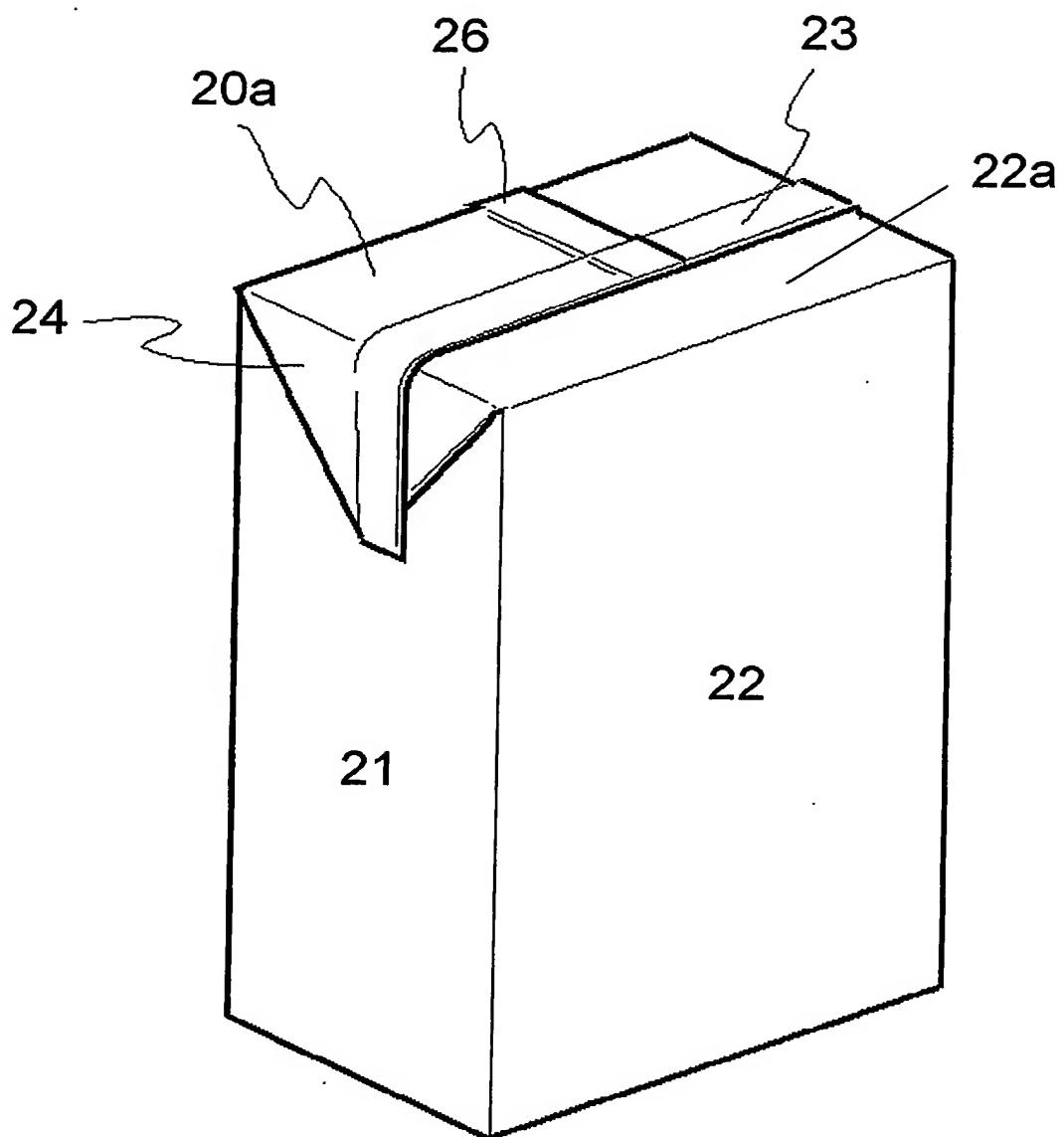
【図 6】



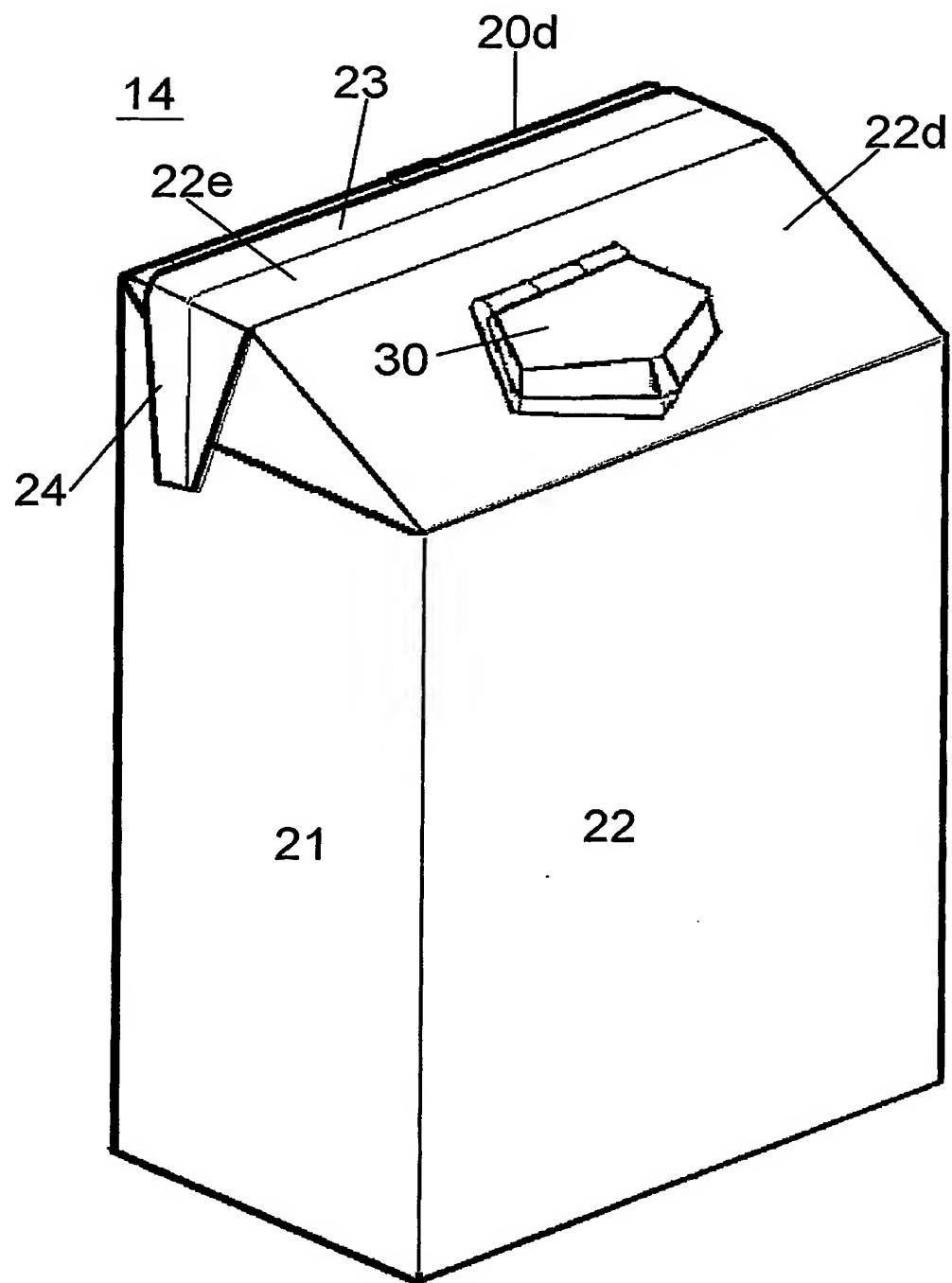
【図 7】



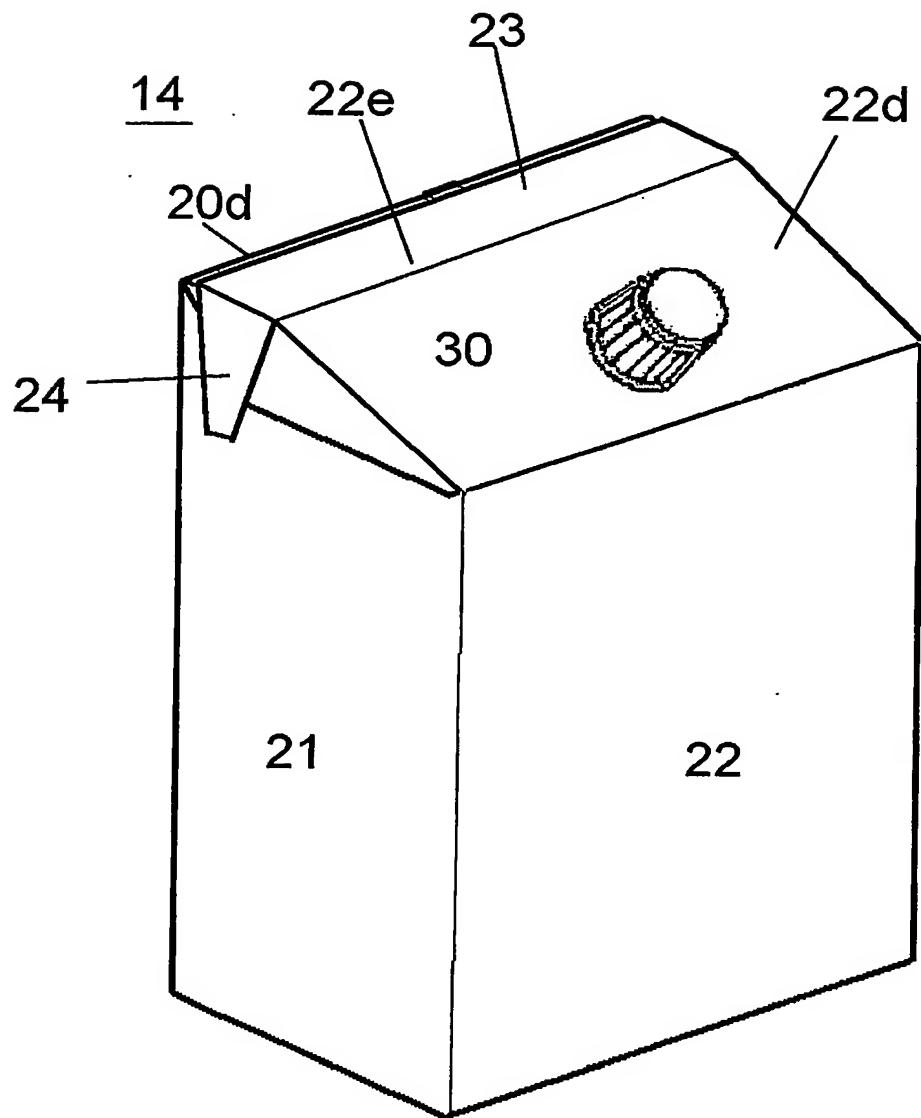
【図8】



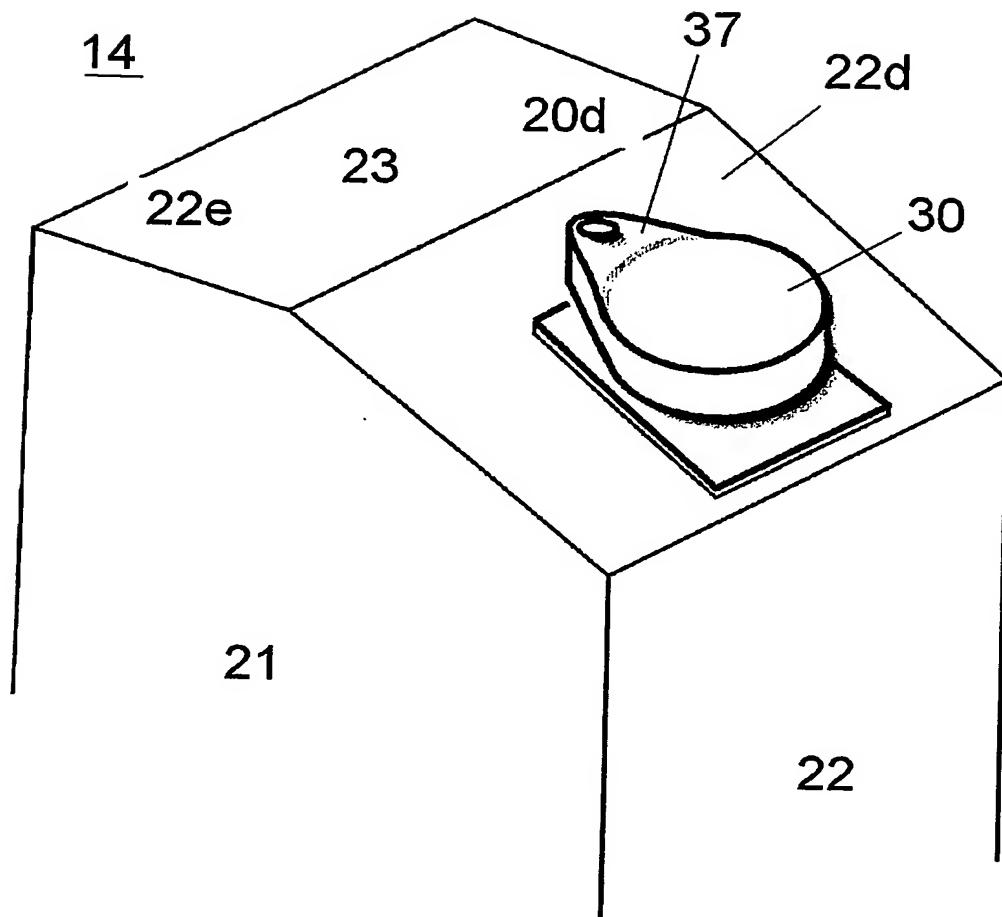
【図9】



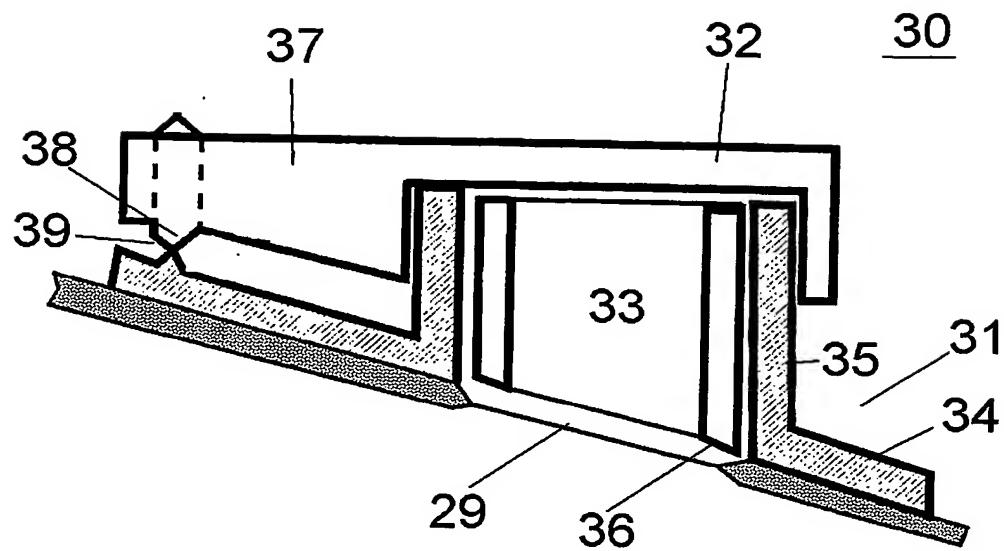
【図10】



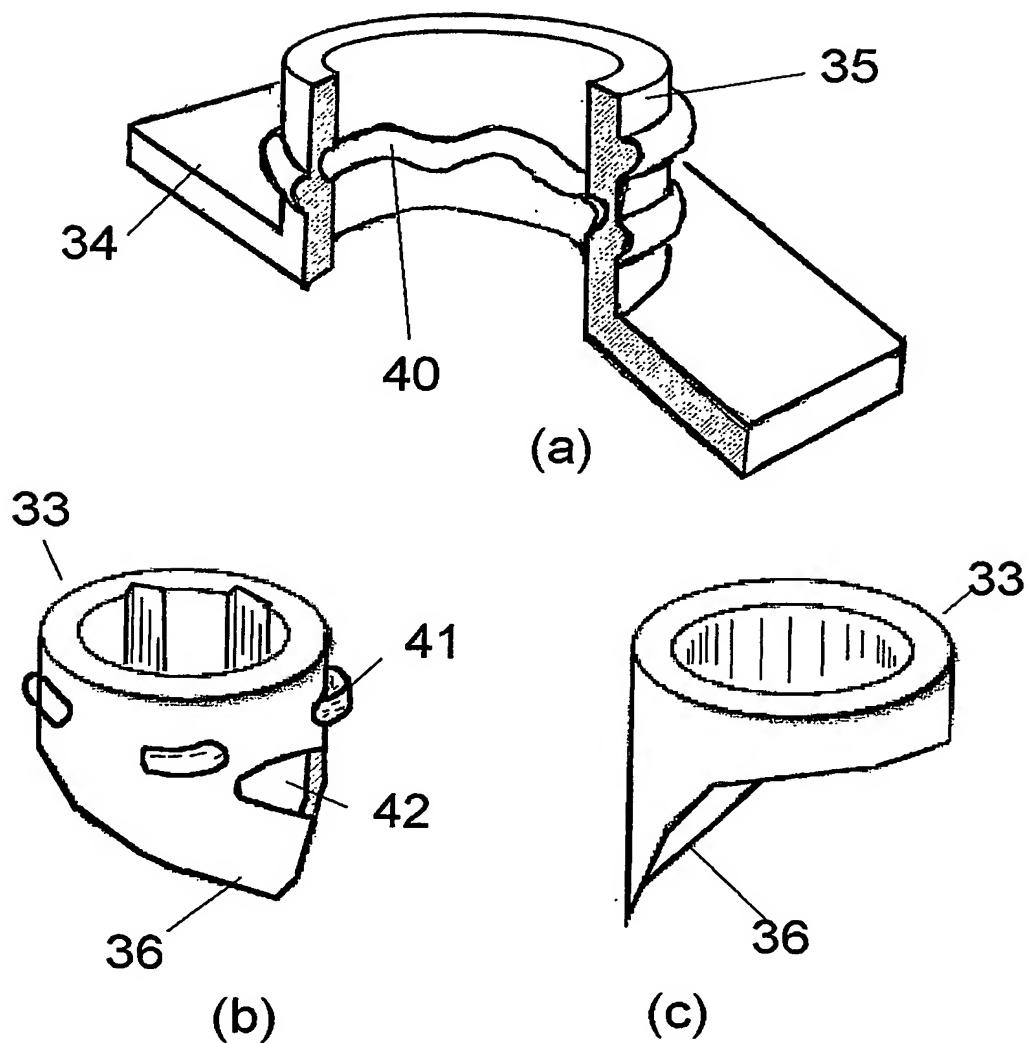
【図11】



【図12】



【図13】



【書類名】 要約書

【要約】

【目的】 折り込み部分の折畳みによる紙容器の引っ張り若しくは押圧のストレスを低減し、強度特性が維持することができ、かつ、片方の屋根部分を広くし大型の注出口を取り付けることができる包装容器を提供することを目的とする。

【構成】 包装容器に取付けられる注ぎ栓は、折り目線の折畳みによって形成される頂部が、頂部の前側において前方に傾斜した面と、頂部の後側において傾斜面と隣接した実質的に平坦な面とを有し、頂部形成に伴って派生するラップが、折り目線の折畳みによって、頂部に隣接する容器側壁に当接されている包装容器に関する特徴とする。

【選択図】 図1

特願2003-016360

出願人履歴情報

識別番号

[000229232]

1. 変更年月日
[変更理由]
住所
氏名

1996年 1月17日
住所変更
東京都千代田区紀尾井町6番12号
日本テトラパック株式会社